

社会環境づくりのための事例収集調査

実施自治体名	新潟県
調査票記入者 所属	三条地域振興局健康福祉環境部 氏名 田崎充子
連絡先	メールアドレス tazaki.mitsuko@pref.niigata.lg.jp TEL 0256-36-2291 FAX 0256-36-2365
<p>取組の名称（調査の対象の例示のように取組の内容を一言で記載ください。事例がない場合はその旨を記載ください）</p> <p>ピンクリボンほっと語らい温泉街づくり事業</p> <p>乳がんの早期発見に関する啓発に加え、乳がん術後女性の生活の質の向上を目指し、「いやし」「やさしさ」等ホスピタリティある温泉街づくりをモデル的に展開</p>	
<p>取組の内容の概要をご記入ください。</p> <p>(1) 乳がん体験者に理解のある温泉街づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉旅館従業員等に対する乳がんに関する研修会の開催 ・ピンクリボン認定旅館・ホテルの認定（独自に5項目の基準を設けて13施設を認定） ・一般住民を対象とした乳がん検診啓発普及のための講演会の開催 <p>(2) 乳がん体験者の交流会の開催</p>	
<p>独自性・特色についてご記入下さい。</p> <p>観光地のイメージアップ、交流人口の増加による地域活性化とがん対策の推進を、従来接点の少なかった産業（観光）分野と保健分野との協働により取り組んでいる。</p>	
<p>社会環境づくりへの効果、格差縮小への効果などについてご記入下さい。</p> <p>温泉旅館・ホテルで積極的に乳がん体験者を受け入れることにより、他の手術後等で大浴場への入浴を躊躇している人達の受け入れを考える機会となっている。</p> <p>また、女性従業員等が自らの予防・がん検診受診への理解を深める事につながった。</p>	
<p>取組のため連携した部署・組織などをご記入下さい。</p> <p>市町村、観光協会、温泉旅館協同組合、女将の会、商工会、乳がん体験者の会</p>	
<p>実施事例を他の市町村等に展開する際に支障となるような要因があればご記入下さい（実施事例がない場合は先行事例を参考に導入する際に障壁となる要因をご記入下さい）</p>	

社会環境づくりのための事例収集調査

(fax:086-235-7178)

実施自治体名 小坂町（実施者：小坂町社会福祉協議会）	
調査票記入者 所属	小坂町町民課町民福祉班 氏名 木村 久
連絡先	メールアドレス hisashi@town.kosaka.akita.jp TEL 0186-29-2400 FAX 0186-29-2411
取組の名称（調査の対象の例示のように取組の内容を一言で記載下さい。事例がない場合はその旨を記載下さい） 地域の環境・つながりの強化（空き家を改修して多世代交流拠点を整備）	
<p>取り組みの内容の概要をご記入ください。</p> <p>町中心部の空き家（空き店舗）を改修し、子どもから高齢者までのほか、障害者など町内の多世代が交流できる拠点として整備。整備主体は小坂町社会福祉協議会で、町は国交付金を活用し、補助金交付により整備事業を支援した。小坂町社会福祉協議会が、ボランティアなどと連携して運営。運営費は同会負担であり、「みんなのお家」運営費に限定しての町の財政支援はない。</p>	
<p>独自性・特色についてご記入下さい。</p> <p>町民だれもが気軽に立ち寄り、家族のように交流できる空間との思いから、「みんなのお家」と名付けた。①一時預かりした子どもと立ち寄った高齢者との交流を見守る子育てサポーターの配置。②社協職員外出時の留守を預かるなど運営に協力する「お家応援団」（ボランティア）の組織化。③傾聴ボランティアが活動拠点にして「お茶っこサロン」を定期開催。④バス待ち小学生たちが時間調整する空間。⑤住宅用エレベーター設置で障害者の交流にも好評。等々様々な交流の拠点となっている。</p>	
<p>社会環境づくりへの効果、格差縮小への効果などについてご記入下さい。</p> <p>定期開設される市場の筋向かいという好条件の場所にあった空き家（空き店舗）が、世代や分野を問わず立ち寄って交流できる空間として生まれ変わった。様々な交流の中から、様々な人間関係や町民相互のつながりが生まれ、情報収集や発信拠点のほか、見守りや支え合いの意識づくりに役立っている。</p>	
<p>取り組みのために連携した部署・組織等をご記入下さい。</p> <p>整備に当たって、「みんなのお家」のほかに、他の社会福祉法人が向かいに「みんなのお店」「みんなの活動館」を同時に整備し、福祉コミュニティエリアとして連携している。また、町民が往来しやすい空間を生かし、町保健センターの健康相談も定例開催している。</p>	
<p>実施事例を他の市町村等に展開する際に障壁となるような要因があればご記入下さい（実施事例がない場合は先行事例を参考に導入する際に障壁となる要因をご記入下さい）</p> <p>財源確保と事業主体の選定、物件の確保、運営費の捻出、ボランティアとの連携</p>	

格差の是正及びソーシャル・キャピタルと健康の関連

研究分担者 稲葉 陽二（日本大学法学部 教授）

研究要旨

健康の社会的決定要因の一つとして社会関係資本 (Social Capital) があげられるが、これは信頼・互酬性の規範・ネットワークなどの多くの構成要素からなり、また地域によって大きく異なることが確認されている。本研究は東京都の歴史的・文化的な発展経緯と所得のジニ係数など社会経済的要因が異なる下町3区（足立、葛飾、江戸川）、都心3区（千代田、中央、港）、山の手3区（目黒、世田谷、杉並）の3地区に郵送法アンケート調査を実施し、社会関係資本の内容が地区によってどのように異なるか、社会関係資本が特に心の健康と密接に相関していること、その相関の内容と程度が地区間によって大きく異なることを明らかにした。

A. 研究目的

健康の社会的決定要因の一つとして社会関係資本 (Social Capital) があげられるが、これは広義にとらえれば信頼・互酬性の規範・ネットワークなどの多くの構成要素からなり、地域によってその内容が大きく異なること、健康と密接に関連していること、が確認されている。しかし、広義の社会関係資本の構成要素を網羅し、成人を対象とした、地域別の比較を行う調査は筆者の知る限りでは我が国ではまだ実施されていない。

本研究は東京都を対象に、歴史的・文化的な発展経緯と社会経済的要因が異なる下町3区（足立、葛飾、江戸川）、都心3区（千代田、中央、港）、山の手3区（目黒、世田谷、杉並）に郵送法アンケート調査を実施し、社会関係資本の内容が地区によってどのように異なるか、社会関係資本が健康とどのように関連しているか、その相関の内容と程度が地区間によってどのように異なるかを検討する。

上記3地区をとりあげたのは、社会関係資本

と健康の両方に大きな影響を与えると考えられる経済格差の状況は3地区で大きく異なると考えられるからである。すなわち、政令指定都市の区まで含めて市町村別所得ジニ係数をみると、下町3区は所得のジニ係数が低く、都心3区は全国的に最も高いグループに属し、山の手3区は両者の中間にある¹。本調査ではサンプル数が区単位での比較を行うには不足しているが、将来、本調査と同様の調査を全国各地で実施し、社会関係資本の地域差の検証のためのデータベースの構築も意図している。

B. 研究方法

筆者は2012年9月初旬から10月初旬にかけ、郵送法により『暮らしの安心・信頼・社会参

¹ 総務省所得税データ（2006-2007）からの西川雅史氏の推計によれば、世帯所得のジニ係数は千代田区 0.531、中央区 0.464、港区 0.565、目黒区 0.478、世田谷区 0.469、杉並区 0.448、足立区 0.373、葛飾区 0.372、江戸川区 0.377

加に関するアンケート調査』を実施した。本調査は信頼、規範、ネットワークなどの社会関係資本を調査対象としている。東京都9区の20歳から79歳までの住民を母集団として、下町3区（足立、葛飾、江戸川）、都心3区（千代田、中央、港）、山の手3区（目黒、世田谷、杉並）計9区の住民基本台帳から無作為に1,500名を抽出して調査票を郵送し、458票の有効回答（回答率30.5%）を得た。本稿ではその概要を紹介するとともに、個票データによる調査項目間の相関、2010年に同内容の質問票により全国を対象に実施したアンケート調査（N=1,599）との比較、および上記の東京の下町、都心、山の手3地区の比較を行う。2012年東京都9区郵送法調査の概要は以下の通りである。

調査目的と設問²

[目的]

外部性を伴う信頼・規範・ネットワークである社会関係資本を、一般的信頼、特定化信頼、ネットワーク（つきあい・社会参加）の観点から明らかにする。あわせて、社会関係資本と健康（主観的健康、生活での積極性＝抑うつ度³）との関連を検証する。社会関係資本には一般的信頼など認知的なもの、社会交流・社会参加の側面からみたネットワークなどの構造的なものに分かれるが、本調査はその双方を調査対象としている。

[調査内容・設問]

1.他人への信頼、2.互酬性、3.日常的なつきあい、4.地域での活動状況と活動参加者の同質性、5.生活の満足度・心配事、6.特定化信頼、7.主観的健康と生活での積極性（抑うつ度）、8.寄付・募金活動、9.腐敗行為に対する

許容度、10.回答者の属性

調査・実施主体

日本大学法学部 稲葉陽二研究室。アンケートの実施は社団法人新情報センターに委託

調査関連期間

調査票の検討 2012年4月～8月

調査実施期間 2012年9月10日～10月19日

調査方法

無作為抽出郵送法（配付・回収とも）

母集団と調査対象者、対象者のサンプリング方法

[母集団] 東京都9区（足立、葛飾、江戸川、千代田、中央、港、目黒、世田谷、杉並）の20才から79才の居住者

[対象者] 東京都9区における居住者1,500名

[サンプリング方法] 住民基本台帳からの無作為抽出法

調査配票数・回収数・回収率

[配票数] 1,500票

[回収数] 458票（無効票なし）

[有効回収数] 30.5%（458票／1,500票）

調査実施メンバー

研究代表者 稲葉陽二、研究協力者 緒方淳子、調査実施と回答の入力は社団法人新情報センターに委託

² 本調査の調査原票を付属資料として本稿の最後に掲載しているのであわせて参照されたい。

³ 高齢者を対象とした15項目短縮版。

記述統計量と回答者の属性

表1 記述統計量 回答者の属性

	N	平均・構成比 (%)	標準偏差ほか	範囲
性別				
男性	205	44.8		
女性	253	55.2		
年齢	458	49.26歳	15.817	20-79
職業				
自営業	70	15.3		
経営者	24	5.2		
民間勤め人	151	32.9	最頻値	
公務員・教員	22	4.8		
パート	63	13.8		
学生	11	2.4		
無職	43	9.4		
専業主婦・主夫	61	13.3		
居住形態				
持ち家	254	55.5		
借家	196	42.8		
居住年数	449	20.3年	18.113	0-71
同居人の数				
単身	102	22.3		
同居人あり	349	76.2		
最終学歴				
小中学校	21	4.6		
高等学校	133	29.0		
専修学校ほか	61	13.3	中位値	
高専・短大	57	12.4		
大学	151	33.0	最頻値	
大学院	27	5.9		
世帯年収				
200万円未満	36	7.9		
200～400万円未満	104	22.7	最頻値	
400～600万円未満	82	17.9	中位値	
600～800万円未満	53	11.6		
800～1,000万円未満	48	10.5		
1,000～1,200万円未満	35	7.6		
1,200万円以上	49	10.7		

C. 研究結果

全国調査との比較

集計値の比較

集計値でみる限り、東京都9区調査は「職場の同僚とのつきあいの頻度」を除き、表2に示されるすべての項目で2010年全国調査を下回っている。特に近所づきあいが希薄であり、かつ地縁的活動やボランティア・NPOなどの団体参加率も低い。すなわち、一般的

信頼、友人・知人への特定化信頼、および職場の同僚とつきあいの頻度は、全国平均とほぼ同水準であるが、近所づきあいの程度（「協力」+「立ち話」の比率）が、全国の60.4%に対し、東京は44.9%と15.5%ポイント下回っているし、近所の人々への信頼について「頼りになる」とする比率が全国の40.5%に対し、東京は25.9%と14.6%ポイントも低い。また、地縁的活動とボランティア・NPOなどの活動への参加率も、それぞれ全国の46.1%、25.3%に対し、東京は28.6%、18.1%にとど

まっている。

表2 調査結果(集計値)の概要

調査名(調査年)	設問 サンプル数	一般的な信頼		特定化信頼				ネットワーク: つぎあい					ネットワーク: 社会参加			
		一般的な信頼	旅先での信頼	近所の人々への信頼	家族への信頼	親戚への信頼	友人・知人への信頼	職場の同僚への信頼	近所つきあいの程度	近所つきあいの人数	友人・知人とのつきあい頻度	親戚とのつきあい頻度	職場の同僚とのつきあい頻度	地縁活動	スポーツ・趣味・娯楽活動	ボランティア・NPO・市民活動
		ほとんど信頼できる	ほとんど信頼できる	ほとんど信頼できる	頼りになる	頼りになる	頼りになる	頼りになる	協力・立話	かなり多くと面識	日常的・頻繁	日常的・頻繁	日常的・頻繁	参加している	参加している	参加している
東京都区調査	458	25.4%	20.3%	25.9%	84.1%	54.4%	67.9%	34.5%	44.9%	45.6%	48.7%	27.1%	26.0%	28.6%	42.6%	18.1%
全国都道(2010年)	1599	27.9%	21.3%	40.5%	89.1%	66.7%	89.7%	36.5%	60.4%	59.5%	48.2%	38.0%	22.1%	46.1%	46.7%	25.3%
全国調査との比較		-2.5%	-1.0%	-14.6%	-5.0%	-12.3%	-1.8%	-2.0%	-15.5%	-13.9%	-0.5%	-10.9%	3.9%	-17.5%	-4.1%	-7.2%
参考																
下町3区	150	22.6%	20.0%	27.3%	83.3%	50.0%	59.4%	30.0%	46.0%	45.3%	38.0%	19.4%	23.4%	28.7%	38.7%	15.3%
都心3区	157	31.2%	24.8%	21.7%	85.3%	49.7%	75.1%	44.6%	42.1%	47.7%	54.8%	31.2%	39.0%	33.8%	42.0%	21.0%
山の手3区	150	21.4%	15.4%	28.7%	83.3%	64.0%	69.3%	28.7%	47.3%	44.0%	53.3%	30.7%	24.7%	23.3%	47.3%	18.0%
上野町(2009年)	632	25.2%	13.3%	74.2%	93.4%	83.0%	72.8%	46.7%	81.6%	75.6%	59.5%	41.3%	28.2%	51.6%	30.9%	36.0%
須坂市(2008年)	601	33.8%	22.0%	48.4%	88.7%	71.9%	68.7%	31.9%	72.7%	72.4%	54.1%	39.6%	20.5%	53.2%	46.9%	27.3%

全国都道(2003年)は内閣府公民生活局調査、全国都道(2010)は稲葉調査
 上野町(2009年)は稲葉・上野町診療所共同調査
 須坂市(2008年)は稲葉・須坂市共同調査

一般的信頼との相関

本調査では、自分の生活の満足度、心配事や健康関連の質問項目も含まれている。生活の満足度は、全国調査と同様に東京都調査でも、統計的に有意に一般的信頼と相関がある。しかし、心配事に関しては、全国調査では17項目すべてについて一般的信頼と有意な相関がみられるが、東京都調査では、有意な相関が観察されるのは、自分の健康・身体状況、家族の健康、家族(高齢者)の世話や介護、年収や家計、仕事上のストレス、職探しや就職、自分の将来の7項目のみである。つまり、

一般的信頼は、東京都調査では、おもに健康や収入に関する項目とのみに相関がみられる。なお、主観的健康と抑うつ度はともに、全国調査でも東京都調査でも、一般的信頼と有意な相関がある。また、抑うつ度との相関係数が主観的健康とのそれよりも格段に高い点は、全国調査と同じである。つまり、東京都調査での相関係数は、主観的健康とは0.134であるが、抑うつ度とは0.29と高い。

回答者の属性との相関は、年齢が高いほど、また、居住年数が長いほど、一般的信頼が高い(相関係数の符号はマイナス)。

表 3 一般的信頼と他の質問項目との偏相関

制御変数：性別、最終学歴、年間収入

	2010 全国調査	2012 東京都 9 区調査
自身の生活の満足度	0.181**	0.181**
心配事—自分の健康・身体 of 状況	-0.097**	-0.124*
心配事—老後の自分の世話	-0.167**	-0.081
心配事—家族の健康	-0.127**	-0.142**
心配事—家族（高齢者）の世話や介護	-0.050	-0.116*
心配事—乳幼児期の子どもの子育て	-0.106**	-0.004
心配事—子や孫のしつけや教育	-0.059*	0.006
心配事—失業やリストラ	-0.116**	-0.045
心配事—年収や家計	-0.147**	-0.128**
心配事—仕事上のストレス	-0.177**	-0.132**
心配事—一定年後の人生設計	-0.122**	-0.066
心配事—職探しや就職	-0.104**	-0.128*
心配事—家庭内の人間関係	-0.155**	-0.084
心配事—近隣での人間関係	-0.146**	-0.011
心配事—近隣での住環境	-0.153**	-0.064
心配事—地域での非行や犯罪	-0.148**	-0.051
心配事—自分の将来	-0.174**	-0.215**
心配事—生活上の孤立	-0.161**	-0.091
心配事合計	-0.202**	0.031
主観的健康	0.151**	0.134**
抑うつ度（GDS15 項目短縮版）	0.270**	0.290**
許容度—年金・医療給付などの無資格受給	0.042	-0.046
許容度—公共交通機関の料金をごまかす	0.039	0.017
許容度—脱税	0.050	-0.007
許容度—収賄	0.076**	0.011
年齢	-0.111**	-0.174**
居住年数	-0.059*	-0.125**

有意確率：両側 **5%水準、*1%水準で有意

(出所) 2010 年『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』全国調査、
2012 年『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』東京都 9 区調査

社会関係資本と健康

表 4 は、主観的健康と抑うつ度でみた健康と社会関係資本との偏相関(制御変数:性別、

最終学歴、年間収入)をみている。全国調査、東京都調査ともに、社会関係資本の構成要素の多くが主観的健康と抑うつ度の両者と有意

に相関している。ただし、主観的健康よりも抑うつ度との相関のほうが顕著である。表 4 は因果関係を示すものではないが、社会関係資本は心身両面で健康と深く結びついていることになる。しかし、主観的健康に関しては、隣近所との関係ではなく、家族、親せき、友人・知人への信頼がより重要である。特に、この傾向は全国よりも東京でより顕著である。また、抑うつ度に関しては、全国、東京ともに、表 4 にある社会関係資本の構成要素すべてと相関がある。社会関係資本は心の病とより深い関係がある。

また、全国と東京を比較すると、主観的健康については総じて同じパターンを示しているが、親戚への信頼に関する相関係数が全国 0.088 に対し、東京は 0.215 と顕著に高く、

東京では頼れる親戚がいる者のほうが主観的健康が高い。東京では、親戚のサポートがあるほうが病気にならない、ないしは罹病しても回復が早いのかもかもしれない。

抑うつ度については、東京は全国と同じパターンを示しているが、いくつかの項目で相関係数に、明白な違いがみてとれる。つまり、近所の人々への信頼(全国 0.218、東京 0.262)、親戚への信頼(全国 0.224、東京 0.349)、友人・知人への信頼(全国 0.229、東京 0.346)、職場の同僚への信頼(全国 0.211、東京 0.326)が、それぞれ東京のほうが大幅に高い。東京についてみれば、近所の人々、親戚、友人・知人、職場の同僚などへの信頼が高い人々は、より健康である。

表 4. 主観的健康／抑うつ度と社会関係資本項目との偏相関
制御変数：性別、最終学歴、年間収入

	2010 全国調査		2012 東京都 9 区調査	
	SRH	抑うつ度	SRH	抑うつ度
一般的信頼	0.143**	0.27**	0.134**	0.290**
一般的互酬性	NA	NA	0.097*	0.175**
特定化信頼—近所の人々	0.038	0.218**	0.075	0.262**
特定化信頼—家族	0.127**	0.267**	0.135**	0.231**
特定化信頼—親戚	0.088**	0.224**	0.215**	0.349**
特定化信頼—友人・知人	0.157**	0.229**	0.157**	0.346**
特定化信頼—職場の同僚	0.113**	0.211**	0.180**	0.326**
特定化互酬性	NA	NA	0.102*	0.127**
ネットワーク—隣近所とのつきあいの程度	0.018	0.242**	-0.012	0.190**
ネットワーク—隣近所でつきあっている人の数	0.029	0.219**	-0.051	0.219**
ネットワーク—友人・知人とのつきあいの頻度	0.082**	0.188**	0.087	0.284**
ネットワーク—親戚・親類とのつきあいの頻度	0.014	0.142**	0.120**	0.168**
ネットワーク—職場の同僚とのつきあいの頻度	0.127**	0.158**	0.122*	0.200**
ネットワーク—地縁的な活動への参加	-0.016	-0.195**	-0.031	-0.202**
ネットワーク—スポーツ・趣味・娯楽活動への参加	-0.109**	-0.197**	-0.113*	-0.204**
ネットワーク—ボランティア・NPO・市民活動への参加	-0.026	-0.149**	0.026	-0.048

有意確率：両側 **1%水準、*5%水準で有意

(出所) 2010年『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』全国調査および2012年『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』東京都9区調査

それでは、主観的健康と抑うつ度との関係はどのようになっているだろうか。表5は主観的健康と現状認識とのクロス集計表であるが、全体の総数を100としている。「とても健康+まあまあ健康」でかつ、抑うつ度調査で否定的回答が5以下の者は、全国調査で57.8%、東京都調査で58.5%とほぼ同じであり、東京のほうが特に健康であるというわけではない。しかし、「あまり健康ではない+健康ではない」でかつ、抑うつ度調査で否定的回答が6

以上の者は、全国調査で13.6%、東京都調査で10.9%と東京のほうが低い。身体と心の健康の双方に問題がある者の比率は、全国では7人強に1人に対し、東京では11人に1人と少ない。これは、主観的健康で「とても健康+まあまあ健康」としているが、抑うつ度調査では6以上の者が東京では調査対象全体の21.6% (4.6人に1人) と、全国の19.6% (5.1人に1人) より上回っていることによる。つまり、身体的には健康と感じている者も、抑うつ度が高い者の比率が東京では多い。

表5 主観的健康と抑うつ度とのクロス集計

2010年全国調査 (N=1,566) と 2012年東京都9区調査 (N=450) の比較

抑うつ度否定的回答数累計 %

主観的健康	0~5	6~15	合計
	とても健康+まあまあ健康な方だ	全国 57.8 東京 58.5	全国 19.6 東京 21.6
あまり健康ではない+健康ではない	全国 8.7 東京 9.1	全国 13.6 東京 10.9	全国 22.6 東京 20.0
合計	全国 66.8 東京 67.5	全国 33.2 東京 32.5	100

それでは、「あまり健康ではない+健康ではない」でかつ、抑うつ度調査で否定的回答が6以上の者は、どのようなプロフィールをもっているのでしょうか。表6は健康でないグループと健康なグループ、それぞれの社会関係資本の構成要素と回答者の属性の平均値を比較している。表から明らかなように、健康なグループは、高学歴、高収入、持家、独居

でなく、比較的若く、女性が多い。また、社会関係資本についていえば、ボランティア・NPOへの参加以外は、すべての構成要素で健康でないグループのそれを上回っている。つまり、健康なグループは社会関係資本も豊かである。

表 6 健康な人と健康でない人のプロフィール比較

	東京都平均 (N = 458)	SRH / DP ともに良 (N=263)	SRH / DP ともに不良 (N=49)	備考
一般的信頼	5.05	4.62	6.06	9点尺度高いほど信頼しない
一般的互酬性	2.06	2.00	2.22	3点尺度高いほど互酬性が低い
特定化信頼—近所の人々	3.24	3.1	3.67	5点尺度高いほど信頼しない
特定化信頼—家族	1.77	1.65	2.14	同上
特定化信頼—親戚	2.64	2.45	3.53	同上
特定化信頼—友人・知人	2.26	2.10	2.82	同上
特定化信頼—職場の同僚	3.01	2.79	3.48	同上
特定化互酬性	2.19	2.39	2.14	3点尺度高いほど互酬性が低い
ネットワーク—隣近所との つきあいの程度	2.51	2.43	2.61	4点尺度高いほど付き合いが無い
ネットワーク—隣近所でつ きあっている人の数	2.60	2.52	2.69	同上
ネットワーク—友人・知人と のつきあいの頻度	2.48	2.33	2.78	5点尺度高いほど付き合いが無い
ネットワーク—親戚・親類と のつきあいの頻度	2.93	2.87	3.16	同上
ネットワーク—職場の同僚 とのつきあいの頻度	3.16	2.99	3.42	同上
ネットワーク—地縁的な活 動への参加	0.57	0.72	0.45	7点尺度高いほど参加度が高い
ネットワーク—スポーツ・趣 味・娯楽活動への参加	1.43	1.69	0.40	同上
ネットワーク—ボランティ ア・NPO・市民活動への参加	0.40	0.46	0.53	同上
性別	1.55	1.59	1.51	1=男性、2=女性
年齢	49.26	49.13	50.04	歳
職業	4.69	4.65	4.84	10点尺度低いほど安定
居住形態	2.43	2.34	2.59	8尺度低いほど持家
居住年数	20.31	21.03	21.81	年
同居人の有無	1.33	1.36	1.25	1=1人暮らし 2=同居人あり
最終学歴	3.59	3.68	3.27	7点尺度高いほど高学歴
世帯収入	4.01	4.14	3.80	8点尺度高いほど高収入

東京都調査にみる 3 地区（下町 3 区、都心 3 区、山の手 3 区）の比較

東京都 9 区調査では、下町 3 区、都心 3 区、山の手 3 区からそれぞれ 150 票、157 票、150 票の回答を得ている。母集団推計には十分な標本数ではないが、参考データとして 3 地区の個性をうかがい知ることができるだろう。

回答者属性

3 地区の回答者の属性をみると（表 7）、3 地区間には大きな違いがみられる。回答者の中心は 3 地区いずれも 40 歳代であるが、平均年齢は下町 3 区が 50.5 才と一番高く、都心 3 区が 47.5 歳と一番低く、山の手 3 区が 49.7 歳と両者の中間となっている。しかも、都心 3 区的最頻値は 30 歳代と若い。しかし、都心 3 区の回答者の平均年齢が一番低いにもかかわらず、所得は都心 3 区が際立って高い。都心 3 区の所得中央値は 600 万円以上～800 万円未満の階層であり、山の手 3 区と下町 3 区のそれ（400 万円以上～600 万円未満）を上回っており、最頻値は 1200 万円以上である。かつ、実に都心 3 区の回答者の 5 人に 1

人が 1,200 万円以上の所得階層に属すると回答している。これは、他の 2 地区の最頻値が 200 万円以上～400 万円未満であることと際立った対照を示している。

これは、都心 3 区の回答者が大卒と大学院卒が過半を占めているのに対し、山の手 3 区は高専・短大と大卒、下町 3 区が高卒と専門学校卒がそれぞれ過半を占めていること、その結果として自営業者、経営者、民間勤め人、公務員・教員といった安定した職業の比率が都心 3 区は 7 割近く（68.1%）に達し、山の手 3 区の 6 割弱（57.3%）、下町 3 区の 5 割弱（49.3%）を大きく超えていることによるものと思われる。つまり、都心 3 区の回答者は比較的若い、学歴が高く、高所得である。一方、下町 3 区の回答者は壮年期から高齢者層が多く、学歴は高卒が中心で所得も都心 3 区よりも低い。また、山の手は両者の中間に位置しているが、所得でみる限り、下町 3 区に近似している。

表 7 2012 年東京 9 区調査における回答者の地区別属性

回答者属性	郵送法調査				
	2010 全国	2012 東京 9 区	(下町 3 区)	(都心 3 区)	(山の手 3 区)
性別(%)					
男性	45.3	44.8	42.7	45.9	45.3
女性	54.7	55.2	57.3	54.1	54.7
年齢構成比(%)					
20 歳代	11.4	13.1	12.7	15.3	11.3
30 歳代	16.4	18.6	15.3	21.7 最頻値	18.7
40 歳代	16.7	21.4 中央値	20.7 中央値	19.7 中央値	24.0 中央値・最頻値
50 歳代	17.3 中央値	14.6	15.3	17.1	11.3
60 歳代	23.3	20.3	22.7 最頻値	15.3	23.3

70歳以上	14.8	12.0	13.3	10.8	11.3
平均年齢(才)	51.4	49.2	50.5	47.5	49.7
職業(%)					
自営業	12.4	15.3	13.3	21.0	11.3
経営者	2.8	5.2	2.0	5.7	8.0
民間勤め人	27.6	32.9	29.3	35.0	34.7
公務員・教員	4.8	4.8	4.7	6.4	3.3
(同上小計)	(47.6)	(58.2)	(49.3)	(68.1)	(57.3)
パート	15.5	13.8	16.0	10.8	14.7
学生	2.3	2.4	0.7	3.2	3.3
無職	13.4	9.4	13.3	4.6	10.0
専業主婦・夫	17.9	13.3	19.3	10.2	10.7
最終学歴(%)					
小中学校	11.5	4.6	5.3	3.2	4.7
高等学校	39.1 最頻値・ 中央値	29.0	44.7 最頻値・ 中央値	15.9	27.3
専修学校他	10.8	13.3	16.0	15.3	8.7
高専・短大	11.1	12.4 中央値	11.3	13.4	12.7 中央値
大学	23.5	33.0 最頻値	20.0	40.8 最頻値・中央値	38.0 最頻値
大学院	2.3	5.9	1.3	11.5	4.7
世帯年収(万円)					
<200	8.1	7.9	13.3	4.6	6.0
200~400<	22.1 最頻値	22.7 最頻値	24.0 最頻値	15.3	28.7 最頻値
400~600<	19.9 中央値	17.9 中央値	22.0 中央値	17.2	14.7 中央値
600~800<	13.7	11.6	14.0	10.2 中央値	10.7
800~1,000<	10.1	10.5	10.0	13.4	8.0
1,000~1,200<	4.9	7.6	4.0	10.8	8.0
1,200≤	6.3	10.7	3.3	19.7 最頻値	8.7
居住形態(%)					
持家	79.4	55.5	57.3	52.2	56.7
借家	19.0	42.8	40.7	47.8	40.0

地区別にみた社会関係資本の集計値の相違

社会関係資本の主要項目集計値を3地区別に比較すると、本稿の前半に掲げた表2に示されるように、都心3区の高水準が目立つ。特に、一般的信頼、互酬性、特定化信頼のな

かの友人・知人への信頼と職場の同僚への信頼、ネットワークとしての友人・知人とのつきあい頻度などは、2010年全国調査の平均と比較しても高水準であり、そのほか、ネットワークとしての地縁的活動参加率、ボランテ

ィア・NPO・市民活動への参加率も、下町3区と山の手3区よりも高い。都心3区は信頼や規範などの認知的な社会関係資本に関していえば、極めて高い水準にあるし、構造的な社会関係資本（ネットワーク）でも地縁的活動やボランティア・NPO活動などは活発である。ただし、同じ表2に示してあるように、上勝町や須坂市などのコミュニティ内の結束が固い地域は、通常、近所の人々や家族、親戚への信頼とつきあいが高水準であるのに対し、都心3区は家族への信頼を除き、近所の人々への信頼、親戚への信頼、近所づきあいの程度などは比較的希薄である。これらの項目についていえば、むしろ山の手3区のほうが高水準である。

全国調査と東京都調査の比較をした際に、主観的健康と抑うつ度とのクロス集計（表5）をみたが、東京3地区間ではどのような違いがあるだろうか。表8は、表5で示した主観的健康と抑うつ度とのクロス集計を東京都の

3地区別に行ったものである。表8に示されるように、心身ともに良好な（表8で左上の）グループの比率は、3地区の間で大きな差がみられる。都心3区の63.9%が最も良好で、下町3区の53.4%を10%ポイント近くも引き離しており、山の手3区はその中間の58.1%となっている。逆に、心身ともに不良な（表8の真ん中）グループの比率は、3地区間では下町10.2%が一番低く、都心11.6%が一番高い。つまり、下町3区では心身共に問題がある者は他の2地区と比して少ないが、心か身体のどちらかに問題があるとした回答の比率が、下町では高い。いずれにせよ、健康面からみれば、都心3区は下町3区より健康であり、山の手はその中間に位置している。ただ、下町3区では心と身体の両面で問題がある者の比率は、都心3区と山の手3区よりも若干低い。

表8 主観的健康と抑うつ度とのクロス集計
2012年東京都9区調査3地区別の比較

		抑うつ度否定的回答数累計		%
		0~5	6~15	合計
主観的健康	とても健康 +まあまあ健康な方だ	下町 53.4	下町 24.7	下町 78.1
		都心 63.9	都心 20.0	都心 83.9
		山手 58.1	山手 20.3	山手 78.4
	あまり健康ではない +健康ではない	下町 11.7	下町 10.2	下町 21.9
		都心 4.5	都心 11.6	都心 16.1
		山手 10.8	山手 10.8	山手 21.6
合計	下町 65.1	下町 34.9	100	
	都心 68.4	都心 31.6		
	山手 68.9	山手 31.1		

因子分析からみた地区別の特性

以上はアンケート調査の集計値からみたものだが、社会関係資本の形態は3地区間でどのように異なるのであろうか。これをみるために因子分析（主因子法）を実施した。統計ソフトはSPSS version19を用いた。回転前の第5因子までの累積寄与率は72.657%に達するため、因子数は5とした。19項目を用いたが、共通性が0.16以下の2項目（その他団体参加率、同居人の有無）、一般的信頼と相関が極めて高い「旅先での信頼」を削除し16項目で実施した。基本的に項目間の相関係数は「一般的信頼」と「旅先での信頼」を除き高くても0.2程度であるので、バリマックス回転を用いた。回転後、東京都9区全体について、表9に示される、以下の5つの因子を特定した。（表10）

- 第1因子：構造型 - 近所付き合い中心
- 第2因子：構造型-家族・親戚中心
- 第3因子：構造型-職場中心
- 第4因子：認知型
- 第5因子：構造型-団体参加中心

この分類は、下町3区、都心3区、山の手3区に分けた場合もほぼそのまま適用できるが、因子間の序列が地区によって異なっている。

すなわち、都心3区の第1因子と第2因子は東京都9区全体でみた結果と同じであるが、下町3区と山の手3区は、構造型 - 家族・親戚中心が第1因子、構造型-近所付き合い中心が第2因子であり、家族・親戚の方が説明力が高い。

また、東京都9区全体では第3因子である構造型-職場中心は、下町3区と都心3区では第3因子だが、山の手3区では第3因子として全体では第4因子である認知型がはいっている。このほか、9区全体では第5因子である構造型-団体参加は、下町3区と都心3区では第4因子となっているが、山の手3区では団体参加型がなく、代わり、友人・知人重視型がみられる。

表10 因子分析の地区別比較

列1	東京都9区	下町3区	都心3区	山の手3区
第1因子	構造型-近所付き合い中心	家族・親戚	近所付き合い	家族・親戚
第2因子	構造型-家族・親戚中心	近所付き合い	家族・親戚	近所付き合い
第3因子	構造型-職場中心	職場	職場	認知型
第4因子	認知型	団体参加	団体参加	職場
第5因子	構造型-団体参加中心	認知型	認知型	友人・知人

表9 社会関係資本の地区別特性の比較

バリマックス回転後の因子負荷量

	東京都9区					下町3区(足立・葛飾・江戸川)					都心3区(千代田・中央・港)					山の手3区(目黒・世田谷・杉並)				
	因子					因子					因子					因子				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
一般的信頼	.185	.154	.143	.356	-.084	.295	.262	.248	-.044	.257	.078	.048	.188	-.075	.259	.117	.230	.495	.014	.068
一般的互酬性	.061	.080	.079	.720	-.007	.007	.122	.100	-.069	.759	-.051	.181	.066	.069	.664	.053	.106	.731	.046	.050
特定化互酬性	-.062	.046	.137	.647	.023	.106	-.101	.128	.130	.586	-.130	-.067	.117	-.018	.631	.101	.063	.717	.186	.067
特定化信頼—近所の人々	.542	.306	.200	.233	-.124	.385	.450	.225	-.200	.131	.638	.314	.202	-.064	.265	.301	.458	.365	.226	-.052
特定化信頼—家族	.081	.599	.168	.089	-.027	.482	.151	.159	-.069	.203	.129	.564	.145	.108	-.021	.774	-.036	.065	.128	.168
特定化信頼—親戚	.056	.867	.140	.092	.023	.921	.091	.123	.033	.067	.030	.807	.121	-.030	.101	.867	-.040	.139	.223	.031
特定化信頼—友人・知人	.057	.420	.466	.223	-.158	.386	.016	.589	-.182	.388	.116	.441	.453	.096	.010	.368	.100	.216	.317	.476
特定化信頼—職場の同僚	.109	.230	.888	.164	.043	.265	.070	.862	.088	.196	.069	.181	.885	.032	.162	.357	.117	.126	.768	.060
ネットワーク—近所づきあいの程度	.700	.120	.094	.060	-.188	.161	.791	.083	-.166	.050	.749	.097	.095	-.088	-.154	.092	.597	.282	.192	.114
ネットワーク—近所づきあいの人数	.857	.135	.015	-.014	-.189	.185	.803	-.015	-.122	-.011	.844	.157	.030	-.113	-.158	.106	.926	.174	.046	.070
ネットワーク—友人・知人との付き合いの頻度	.186	.153	.312	.063	-.492	-.043	.260	.407	-.442	.009	.292	.269	.316	-.410	.111	.089	.229	.058	.158	.798
ネットワーク—親戚・親類との付き合いの頻度	.175	.502	.048	.045	-.038	.604	.131	-.033	.065	-.064	.164	.486	.032	-.087	.081	.492	.198	.091	.112	.070
ネットワーク—職場の同僚との付き合いの頻度	.059	.085	.580	.138	-.161	-.024	.022	.601	-.111	.039	.086	.083	.548	-.207	.222	.155	.101	.135	.691	.135
ネットワーク—地縁的活動	-.414	.000	-.025	.029	.439	-.034	-.401	-.027	.449	.244	-.493	-.063	-.078	.405	-.037	.080	-.456	-.104	.021	-.137
ネットワーク—スポーツ等	-.032	-.021	-.004	-.058	.598	-.067	-.014	.002	.796	-.104	.015	.111	-.035	.666	.014	-.096	-.293	-.063	.051	-.313
ネットワーク—ボランティア等	-.219	.019	-.065	.036	.517	.056	-.188	-.101	.594	.073	-.322	-.037	.001	.544	.001	-.022	-.277	.048	-.144	-.149

D. 考察

集計値でみた東京都9区の広義の社会関係資本は、全国調査のそれと比較すると職場の同僚との付き合いを除くすべての項目で全国平均を下回っている。特に、近所の人々および親戚との付き合いや信頼、地縁活動への参加率が低い。しかし、主観的健康と抑うつ度に関しては、全国調査とほぼ同様に社会関係資本の構成要素の多くについて、統計的に有意な相関がみられ、特に抑うつに関しては、東京都のほうが全国よりも相関係数が高い。

また、東京都9区調査では心身ともに健康な者は、不健康な者よりも社会関係資本の構成要素の値が高い。また、東京では、全国に比べて、近所の人々、親戚、友人・知人、職場の同僚などへの信頼が高い人々はより健康である。ただし、健康なグループは、高学歴、高収入、持家、独居でなく、比較的若く、女性が多い。また、東京都のデータを下町3区、都心3区、山の手3区にわけると、高学歴、高収入の都心3区が心身ともに最も健康である。社会関係資本以外の要因が影響しているのは明らかであり、健康と社会関係資本との因果関係も明らかではない。しかし、その一方で、収入、学歴で都心3区、山の手3区に劣る下町3区において心身両面で問題がある者の比率が一番低いことは、社会関係資本が健康の悪化を防ぐラチェット効果を持つとみることもできよう。

このほか、本研究では、因子分析を実施し、社会関係資本の5つのパターンを抽出した。因子分析から、一般的信頼や互酬性などの認知型の社会関係資本の説明力は構造的なものよりも低い、その序列は地区により異なることが明らかになった。標本数が十分ではなく、確定的なエヴィデンスではないが、今後の政策実施において用いる施策を、地域における社会関係資本の特性に応じて変えること

が効率的かもしれない。

E. 結論

本稿では、2012年に東京都の9区の住民を対象に実施した『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』の概要とその結果を筆者が2010年に実施した全国調査と比較した。東京都の社会関係資本は、全国と比較すると、その構成要素の殆どで、全国の水準を下回っている。特に、近所の人々への信頼やつきあいは希薄である。しかし、社会全般への一般的信頼、職場の同僚への信頼やつきあい、友人知人への信頼やつきあいなどはほぼ全国と同水準にあり、東京では居住する近隣よりも、むしろ職場や友人知人との関係が中心であることが分かる。地縁的活動への参加率も全国を大幅に下回っている。東京の社会関係資本は地域密着型ではない。

しかし、社会関係資本と健康関連の回答結果との間の相関は、東京都調査でも、全国調査と同様、統計的に有意な相関がみられ、特に心の健康は社会関係資本と密接に関連していることが確認された。

このほか、サンプル数が少なく母集団推計はできないが、東京都のなかでも、下町、都心、山の手の間では、社会関係資本の構成要素に大きな違いがみられることが確認された。

F. 研究発表

1. 論文発表

稲葉陽二(2013)「『暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査』2012年東京都9区調査の概要」『政経研究』第50号第1巻(印刷中)、日本大学法学会。

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）
なし

以上

暮らしの安心・信頼・社会参加 に関するアンケート調査票

本調査は、皆さんの、暮らしの安心・信頼・社会参加に関するものです。

＜実施＞ 日本大学法学部 稲葉陽二研究室

- ご回答は、必ずあて名のご本人がご記入ください。
- ご回答は、大部分が、あてはまるものの番号に○をつけていただく形式です。
- ご回答は、すべて個人のお名前と切り離して統計的に処理しますので、内容が外部にもれることは決してありません。
- ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れ、9月23日（日）までにご投函ください。
- ご協力いただいた方には、後日、お礼に図書カード（500円分）をお送りいたします。ご回答の有無は、調査票の右上の整理番号で管理しておりますので、調査票にお名前やご住所をご記入いただく必要はありません（なお、住所変更があった場合は、調査票上部余白に新住所のご記入をお願いします）。
- ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください。

アンケートの実施に関するお問い合わせ

（社）新情報センター 担当：安藤、今出川

電話：03-3473-5231

（受付時間：平日9～12時、13～17時）

アンケートの内容に関するお問い合わせ

日本大学法学部稲葉陽二研究室

電話：03-5275-8639（直通）

2-(2) 以下の①から③のそれぞれについて、あなたは普段どの程度の頻度でつきあいをされていますか。またその手段は主にどれですか。あてはまるものをそれぞれ 1 つずつ 選び、その数字に○印をつけてください。

①友人・知人とのつきあい（学校や職場以外で）

1. 日常的にある	（毎日～週に数回程度）
2. ある程度頻繁にある	（週に1回～月に数回程度）
3. ときどきある	（月に1回～年に数回程度）
4. めったにない	（年に1回～数年に1回程度）
5. 全くない（もしくは友人・知人はいない）	

②親戚・親類とのつきあい

1. 日常的にある	（毎日～週に数回程度）
2. ある程度頻繁にある	（週に1回～月に数回程度）
3. ときどきある	（月に1回～年に数回程度）
4. めったにない	（年に1回～数年に1回程度）
5. 全くない（もしくは親戚・親類はいない）	

③職場の同僚とのつきあい（職場以外で）

1. 日常的にある	（毎日～週に数回程度）
2. ある程度頻繁にある	（週に1回～月に数回程度）
3. ときどきある	（月に1回～年に数回程度）
4. めったにない	（年に1回～数年に1回程度）
5. 全くない（もしくは同僚はいない）	

3. 地域での活動状況についてお伺いします

あなた自身の、地域における活動状況についてお聞きします。

①あなたは現在、下表のAからDのような活動をされていますか。あてはまるものをそれぞれ1つずつ選び、○印をつけてください。

	A.地縁的な活動 （自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会等）	B.スポーツ・趣味・娯楽活動 （各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習等）	C.ボランティア・NPO・市民活動 （まちづくり、高齢者・障害者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力、提言活動など）	D.その他の団体・活動 （商工会・業種組合、宗教、政治など） 上記以外の場合具体的に記入ください （ ）
ア. 年に数回程度活動	ア	ア	ア	ア
イ. 月に1回程度	イ	イ	イ	イ
ウ. 月に2～3回程度	ウ	ウ	ウ	ウ
エ. 週に1回程度	エ	エ	エ	エ
オ. 週に2～3回	オ	オ	オ	オ
カ. 週に4日以上	カ	カ	カ	カ
キ. 活動していない	キ	キ	キ	キ

※A～Dすべて「キ. 活動していない」方は5頁の4-(1)にお進みください